

様式第九号（刑訴第二二三条、第一九八条）

花井 貞子

供述調書

住居

金沢市南新保一丁目五番二

職業

トナリ運転手

電話 ニニ局五〇二番

氏名

花井 貞子

昭和三十三年二月十七日生（二八歳）

右の者は、平成四年四月一日金沢西警察署署長
において、本職に対し、任意次のとおり供述した。

私は今言、スところに住み

市内ニ町にある

市場急配

三川 具 峰 冬月 氏

甲 第六六号証

といふ運送会社のトラック運
手として働いておりま
す。

同じ会社の運転手仲間
にいます。

長野 千代樹
が来る四月一日の晩

安藤文子
という女性を殺まな
で怪我を負わせたの
が、このころに
ついでに

会社の者から聞いて知、
ております。
秘書にありました

安藤 文三郎

私や廣野と同じ会社で
事務員をいいます。

よく知、ています。
それです。

警視庁の方から

私と廣野との関係、

廣野と安藤との関係、

などについて、

私の知っていることを

三井物産株式会社

廣野ふすが

あいつは私と同じ中学校
の出身で

一年後輩になり

る。関係は前々から知っていた
思ふ。

廣野は 龍崎町中津川の
出身で

私は別に龍崎町直島の
出身で

二人とも 龍崎中学校と
卒業しているのだ。

今の会合へは私の誘い

12

廣野より先に入浴してゐるのことが

あ
う
つ
ひ
た
て
て
か
う

後輩といふ胸柄か

你受不

三宅 金七 末子

と
講、
7
い
了
の
乙
9

廣野 信

離婚して一人暮らし

こども ありていふやうに

[illegible]

10/27

△ 4 a 月頃に

家に遊びに来ます様に
はじめまして

安藤 文子さんの
娘さん

という事を、貴郷の口から

知ります。す。
いつ頃と言われども

自信は無いのです。
お

仕事や終ったのか
二人の間は、頃のはず

貴郷に会った事を、お

私のアパートに遊びに来た

時のことを、お

五

この時、貴野は

文とせんのことか、ゆさやけと

何を言、ても

は、まりと、し、返事をくれない

というような内容のことを

私に言、て、さす、の、です。

貴野は

安藤さんが、煮えくさい

というところ、私に、言、い、ス、か、ス、

の、わ、し、を、れ、さ、せん、か、

私は、貴野に

局、角、に、は、い、か、さ、い、さ、し

という、意味、の、こ、と、を

長野県に伝へるはす。

こののも 表は

そこは 遊んでゐる。

ような女はなく

自分のさうをし、ありと

持た、~~お~~の強い女

この印象を 女に對し

て、~~お~~からさす。

また、この時

私は、~~お~~に對して

さういふお嬢は

「女」少しはさかっています。

加藤

加藤

六.

らしい

この事も話してありませう。

「お嬢」は

もちろん安藤文子のこと

で、私はそれまでに彼女のこと

を呼んではいません。

また、今言った彼女とは

以前、彼女に会ったこと

安田君

のことです。

私がこの事を安藤に話した

のは

幾、別、安藤に

恐らくせよつもりでいます。

訳ではなく

廣野↓が

あんまりお嬢のことで

言うので

係り方にまかす。

安、お嬢の付き合いに

これは

安、本人の口から聞いた

のことが

安、これはそんなに

親密な交際では無い

ようなのかもしれない。

七、

付う合はる、ス、まうてゐる。
廣野、自身、ニ、事、を
聞いて、どう思ふ、ス、か、知り
ません、が
何、え、も、言、う、ま、う、に
是、れ、別、な、え、接、ち、が、あ、つ
て、了、こ、と、は、な、い、の、で、す。
さ、し、て、さ、う、さ、日
廣野、が、あ、ま、り、ト、も
「お嬢、の、こ、と、を」
え、ト、や、り、こ、い、ス、の、で、
私、は、廣野、ト、対、し、て
俺、が、ら、お、嬢、に、お、話、を

してやろうか

と言ひ、又野村が来る場へ

「あ、娘さんの家に電話を掛ける
が、懐かしくあります。」

私、このように、又野村に
言ひ、その日は

好きだし、嫌ひなし

本人同様に

面々向かい、言ひ、その
も、あるだろう

と思ひ

俺が、同じく、やうな

自分の、戸口、から

お嬢の父へ電話をした

のさす。

し、この時

電話に掛も来りあつたか

あつた

お嬢が留守あつたか

忘れこゝろいゝゝゝと、と、角

お嬢とは直接話をした

ことがあつたか、とのさす。

お嬢に話し、お嬢と、との

関係について、けじめをつけろ

といふ事、といふこと、といふこと

あ、

答

私自身

さうなの

意味のことや、廣野に言ふに

記憶はありとす。

たが、私を飾るために

お嬢は

おんこいる女はるい

ようぶかく

簡単にひ、あげら

という訳にはいかぬよ

という意味のこととす

本多に似てゐる

真剣にわれ

という程なのことは

に浮入りし入るまい

との気持でが 自分にあつたか

てす。

しや、今更にみれば

妻が自分か、さうして

思ひ詰めていた

とすれば

私が何びきり言ふ

お嬢さん、女のこと

か、ひとつの事、因ふたのか

とも思ひ、いふやうな

うし

そんな事、なるべし

え

何もうやし相談を
しこくはるか冬のか

とめ残念な気がするもの

とめ

お嬢は

現在 月夜中央を流る

入院中で

意識不明の重体との

いふことが

役女は

仕事もよくこなすし

よく動く女の人で

一刻も早く帰って後帰

三日月 筆 冬月氏

——とはいふと思ひます。

廣野に對しては

自分の罪は罪と——
これを償ひ

また、たゞに後悔——スルハ
先づ對面として何かと相談に
乗つて貰ひたいと思ひます。

浜口卓也

右の通り録取し読み角——かですと
誤りのないことを申し之を署名捺印
す。

前同日

金沢西警察署長

司法警察局長

警部補

村元重夫

三川長隆氏